

## ●第2回 日本・韓国・台湾ネットワーク会議 参加報告

平成26年10月20日・21日の2日間、台湾・台北にて開催された第2回日本・韓国・台湾ネットワーク会議(三国会議)に参加しましたので、概要を報告します。三国会議は、電子マニフェストを導入している日本・韓国・台湾の関係機関が、電子マニフェスト制度や産業廃棄物管理に関する情報交換を目的として、JWセンターの提唱により始まりしました。三国会議は、第1回が平成25年12月に東京で開催され、各国の機関が輪番で毎年主催することとしています。

### 【参加機関】

第1回三国会議に引き続き、日本からはJWセンター、韓国からは韓国環境公団(KECO)、開催国の台湾からは行政院環境保護署(EPA)の3機関が出席しました。

### 【1日目(10月20日)】

#### (1) モーニングセッション

モーニングセッションでは、台湾環境保護署Kuo-Yen Wei 大臣、JWセンター岡澤和好理事長、KECO Kang.Hee Tae廃棄物管理グループ部長の挨拶の後に、廃棄物管理をメインテーマとして、各国から以下の内容についてプレゼンテーションが行われ、その後ディスカッションを行いました(表1)。

表1 モーニングセッションの内容

発表機関	テーマ
台湾(EPA)	台湾における廃棄物管理
日本(JWセンター)	日本における災害廃棄物管理支援システムの開発と利用実績
韓国(KECO)	韓国における産業廃棄物管理システム

#### <台湾>

台湾の産業廃棄物管理の法的根拠及びオンラインシステムの概要、不法投棄対策の強化を目的として開発されたリアルタイム追跡管理システムについての発表がありました。

#### <JWセンター>

平成23年3月の東日本大震災による被災状況の概要、がれき等処理の進捗状況、東日本大震災により生じた災害廃棄物処理を支援するために開発した「災害廃棄物管理支援システム」の概要と利用実績及び今後の課題について発表しました。

#### <韓国>

韓国の電子マニフェストシステムであるAllbaroシステムの特徴とその効果についての発表がありました。

#### (2) アフタヌーンセッション

アフタヌーンセッションでは、各国の廃棄物管理、最終処分の現状について、より専門的な内容の発表が行われました(表2)。アフタヌーンセッションの最後には、1日の発表を通じた活発な意見交換が行われ、台湾・韓国の貴重な情報を得ることができました。

表2 アフタヌーンセッションの内容

発表機関	テーマ
台湾(Chung-Tai Resource Technology Corp.)	廃蛍光灯の再生利用
台湾(EPA)	台湾における最終処分の現状
日本(JWセンター)	日本における最終処分場管理の現状
韓国(KECO)	韓国における廃棄物管理
台湾(国立台湾大学環境工学研究所)	台湾における持続可能な資源管理

### 【2日目(10月21日)】

2日目には、2施設の見学を行いました。

1ヶ所目は、かつて台北市の最終処分場だった緑があふれる公園を訪問しました。公園は、土地の跡地活用として開放されており、太陽光・風力発電設備を持つ小さな無料宿泊施設も整備されて、見事に変化を遂げた様子でした。



2ヶ所目は、製品のボトル等にリサイクル技術を用いるなど、資源の再利用やリサイクル活動に先進的な取り組みを行っているヘアケア用品の製造企業を訪問しました。オフィスでは、太陽光発電や環境に配慮した技術を取り入れているため、エアコン使用も少ないとのことでした。

2ヶ所の施設訪問を通して、台湾での環境活動の一端に触れることができました。

#### 【おわりに】

本ネットワーク会議は、第3回目として平成27年度に韓国での開催が決まっております。今後も、本会議を、日本・韓国・台湾の産業廃棄物管理に関する有効な情報交換および三国の電子マニフェスト運営機関の連携を深める場として、継続して開催していくこととしています。

## 「APLAS Ho Chi Minh 2014」参加報告 国際部・調査部

国際事業における産業廃棄物情報の発信と収集の一環として、平成26年10月23日（木）にベトナム・ホーチミン市で開催された「The 8th Asian-Pacific Landfill Symposium (APLAS Ho Chi Minh 2014)」に参加しましたので、概要を報告します。

APLASは、アジア太平洋地域の深刻な廃棄物問題に対処し、持続可能な開発の実現を目指して、廃棄物の埋立及び再資源化分野等の専門家が集い、それぞれの有する技術、理論または経験を共有し、地域全体の環境向上に資することを目的として、2年毎にアジアの都市で開催される国際シンポジウムです。日本の特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会（LSA）がシンポジウムの常設事務局となっています。

今回のシンポジウムには、開催国ベトナムの他、日本、

韓国、中国、インドネシア、ニュージーランド、ベルギーの7カ国から、約140人が参加しました。開会式では、主催者のLSA、ホーチミン工科大学からの挨拶（写真1）に続き、日本からは環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課山田課長補佐と、シンポジウムを後援している日本廃棄物団体連合会国際委員会の当センター岡澤理事長が祝辞を述べました。

基調講演では、インドネシアと香港の廃棄物管理の現状と課題に関する発表が行われました。インドネシ



写真1 開会式挨拶  
(ホーチミン工科大学 Vu Dinh Thanh 学長)



写真2 基調講演(香港大学 Kaimin Shih 准教授)